

「麻しん(はしか)ゼロをめざして」

今年の春から夏にかけて、関東地方を中心に麻しん(はしか)が流行して、高校や大学で休校が相次いだことがマスコミに大きくとりあげられました。堺市でも小中高生から大人を中心に、麻しんの患者さんがみられました。

以前は、毎年、何万人もの麻しんの患者さんがあり、入院をしたり、重症になることが珍しくありませんでした。しかし、予防接種を早く受けようという運動が効果をあげて、ここ数年は、ほとんど麻しんをみることはありませんでした。

麻しんの患者さんの多くは、麻しんにかかったことがなく、予防接種を受けていない人です。しかし、多くはありませんが、予防接種を受けても麻しんにかかることがあります。

予防接種を1回受けるだけでは、麻しんをなくすことができないので、昨年から、2回目の接種を小学校入学前の一年間に受けるようになりました。また、来年度から5年間に限って、中学1年生と高校3年生が2回目を受けることが予定されています。今年の流行でみられた高校生や大学生に確実に免疫をつけることが大切だからです。

麻しんの流行をなくすためには、1回目の予防接種を1歳になったらすぐに受けることと、更に2回目の接種を多くの人受けることが欠かせません。麻しんの予防接種は、現在は風しんとの混合であるMRワクチンが使われています。風しんの予防のためにも原則として、MRワクチンを受けることをお勧めします。

平成19年12月

西垣 正憲